

アジア頂点支えた医師

女子ハンドU18代表に帯同

「この上なく幸せ」

ハンドボール女子日本代表の活躍を石川県内の医師が支えている。7月にインドなどで行われたU-18アジア選手権では、KKR北陸病院(金沢市)の整形外科医・浅井一希さん(36)がチームに帯同し、初優勝をサポートした。高校、大学とハンド部に所属した浅井さんはチームと過ごした3週間を「この上なく幸せだった」と振り返り、「また機会があればやりたい」と語った。

未経験の重圧

監督ら代表スタッフは7人で、関係係では浅井さんがドクター、東京五輪に出場した石立真悠子さん(小松市立高OG)がコーチとしてチームを支えた。浅井

さんはけが予防の陣頭指揮を執り、食事や衛生面の管理にも力を注いだ。選手と積極的にコミュニケーションをととり、異国の地で最大の力を発揮できるようにスタッフと協力した。試合中に選手が負傷する

と、素早い処置だけでなく、プレーを続行できるかどうかの判断も求められる。チーム戦術にも大きく関わる大役に「経験したことのない重圧で毎日おなかを下していた」と明かす。

日本は5チームによる予選ラウンドを突破。準決勝で中国を34-22、決勝では韓国を24-23の僅差で破って初優勝を果たし、来年の世界選手権の切符をつかんだ。

浅井さんは「強敵の韓国に勝つことがすごい。やってきたことが全部報われた」と歓喜の輪に加わった。興奮を語る。大会後、選手たちにももらった寄せ書きは宝物だ。

恩師は「おりひめ」

浅井さんは幼少時から体を動かすことが好きで、能美市粟生小、寺井中時代は野球少年。小松高と金大ではハンドボール部に所属した。「実家は薬局。医師という立場で、大好きなスポーツに関わりを持ちたい」と医学の道へ。現在はツエーゲン金沢もサポートする。

女子代表トップチーム「おりひめジャパン」でチームドクターを務める木島さんは、金大ハンド部時代の監督で金大の大先輩でもあり「進む道を示してくれた恩人」と感謝する。

KKR北陸病院 浅井さん

メダルと寄せ書きを持つ浅井さん
KKR北陸病院



アジア選手権を制し、喜ぶ選手と浅井さん(後列左) 11月7日、インド(浅井さん提供)

10月から七尾市の恵寿総合病院に勤務する浅井さんは「場所はどこでも自分ができることをやるだけ。また日本代表に携われる機会があればうれしい」と意欲を示した。